

授業概要

われわれの生活は企業なしにはもはや成り立たないほど、企業に依存している。企業で働いている人は、全就労者のおよそ8割にものぼり、彼らは企業から所得、社会的地位、生き甲斐、達成感をも得ているのである。そして、われわれの身の回りにあるものはすべてとっていいほど、企業がつくりだし、われわれの手に届けてくれたものばかりである。遠い外国の食材が食卓を飾るのも、また外国のレストランで食事ができるのも、みな企業活動の結果である。さらに、企業が生み出した富は、4割以上の若者が大学・短大で学べるほど（日本）社会を豊かにし、教育、医療、警察・消防等々の社会的諸制度を成り立たせているのである。しかし、その一方で、ダイオキシンや温暖化現象など地球環境の破壊が進行しつつあり、人類のみならず、すべての生き物の生命が危機に瀕しているのもまた真実である。本講義は、それらの課題を解決して行くアイデアを理解するよう討論する。

授業計画

第 1 回	現代企業を見る視点（オリエンテーション）
第 2 回	第I章「財・サービスの提供機関」としての企業：経済発展と生活の変化
第 3 回	課題解決のためのグループディスカッションとプレゼンテーション
第 4 回	第II章「株式会社」としての企業：株式会社の機能と構造
第 5 回	課題解決のためのグループディスカッションとプレゼンテーション
第 6 回	課題解決のためのグループディスカッションとプレゼンテーション
第 7 回	第III章 大企業としての企業：大企業とは何か
第 8 回	課題解決のためのグループディスカッションとプレゼンテーション
第 9 回	課題解決のためのグループディスカッションとプレゼンテーション
第10回	第IV章「組織」としての企業：企業組織の諸形態
第11回	課題解決のためのグループディスカッションとプレゼンテーション
第12回	課題解決のためのグループディスカッションとプレゼンテーション
第13回	第V章「家」としての日本企業：日本企業と従業員
第14回	課題解決のためのグループディスカッションとプレゼンテーション
第15回	第VI章「社会的器官」としての企業：企業の社会的責任論
第16回	期末試験

到達目標

まず第1に、重要であるがその複雑性ゆえに簡単にはとらえ切れない現代企業をできるだけわかりやすく、具体的に解説することを心がける。そのため、とっつきにくさを配慮して、独占禁止法や市場規制問題など経済学的側面や法律的側面には、あえて十分に触れなかった。第2に、企業はどんなもので、どのような構造をしており、またどんな活動をしているか、そしてその企業を分析する理論にはどんなものがあるかを、できるかぎり整理して解説するようにする。第3に、企業およびその活動の諸側面をただ羅列するのではなく、同時に現代企業の抱える問題も理解できるよう心がけた。現代の大企業は社会的責任や社会的貢献などを要求されるようになっており、また企業統治論などが近年問題にされている。これらの問題はきわめて現代的であるとともに、今後よりいっそう重要なテーマとなるであろう。これら現代企業に突きつけられている問題がどこから、そしてなぜ生まれてきたのかを明らかにすること、そして、これらの問題を考えるために必要な、企業は誰のため、何のためにあるのか、という点を理解し、課題解決のヒントにできる。

履修上の注意

学生と講師によるディスカッションを本講義では大切にしたいと考えている。

予習・復習

★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。★本講義では、学生と講師によるディスカッションを大切にしたいと考えている。

評価方法

1) 期末試験(50%) 2) 課題解決のプレゼンテーション(30%) 3) 講義への貢献度、グループ討論のレポート(20%)

テキスト

- ・教科書名：『企業論』
- ・著者名：三戸浩、池内秀己、勝部信夫
- ・出版社名：有斐閣アルマ
- ・出版年（ISBN）：2011（978-4641122833）

また、教員オリジナルの資料も使用する。実際の経営資料等も含まれるため事前配布は行わない。必要に応じて、授業後に配布可能なスライドを配布する。